

(これは2011年の職業奉仕委員会の講演の資料を参考までに添付しました。)

『職業奉仕の原点と実践』

(2011～2012年度) 第2530地区 職業奉仕委員長 篠木 勝司

職業奉仕の原点はシカゴのマフィア時代に遡る。 職業奉仕の理念がどのように生まれたのか、また、毎日の経営の中でどの様にしてロータリーの**職業奉仕の理念**を実践に移すかについてお話をしたいと思います。
職業奉仕は難しいものと思われがちですが、決してそうではありません。職業奉仕の**実践**とは企業経営の方法、即ち私達の毎日の職業生活に他なりません。職業奉仕はアーサー・フレンドリック・シェルドンがミシガン大学経営学部で専攻した販売学を基本として、1902年に自らが設立したビジネス・スクールで、20世紀の経営学の基本理念として教えていた考え方を、後年そのままロータリーが受け入れて、**ロータリーの奉仕の理念として提唱したもの**であります。自分の儲けを優先するのではなく**自分の職業を通じて社会に貢献する**という意図を持って事業を営めば結果として**継続的な事業の発展が得られる**という独自の思考です。

この考え方を私達は**職業奉仕**と呼んでいます。シェルドンは1910年、1911年、1913年、1921年の都合4回の国際大会と、クラブ誌『The Rotarian』に対する2回の投稿で、**職業奉仕の理念**を説いています。シェルドンの**職業奉仕の理念**をお話しする前に、当時のアメリカ社会の情勢や時代背景をお話しておかなければなりません。

1800年の後期頃、アメリカン・ドリームを夢見て西へ西へと向かった人たちが集まった交通の要衝として栄えた町、無法と腐敗の町、それが**シカゴ**でした。資本主義のもっとも醜い面をさらけ出した無秩序な自由競争の下では、同業者は全てライバルであり、法さえ犯さなければ金を儲けた者が成功者としてもてはやされました。後ろめたな気持ちがあれば僅かばかりのチャリティーをすれば周囲の人々は納得しました。騙すより、騙されるほうが悪いという風潮がまかり通り、誇大広告・虚偽広告はあたり前でした。**こんな状況の中でロータリークラブが創立されたわけですから、当初会員は何事でも胸襟を開いて話し合えて、また、信用と友情を培うことが目的となり、各々が違った職業であることを利用した物質的相互扶助によって、グループでの事業の発展を図ったことも容易に想像がつかます。シェルドンは物質的相互扶助だけに頼らずに、継続的に利益を上げて事業を発展させるための企業経営の方法として、みんなに職業奉仕を説いたのです。**



当時の時代背景を考えれば、もしも**職業奉仕**を倫理や精神運動として進めたとしたら、誰も耳を貸そうとしなかったでしょう。**商品や業務に対する知識、アフターサービス、顧客が感じる満足感と公平感、こういったもの全てがサービスであり、サービスの良い店には必ず顧客がリピーターとなって再三訪れたり、別の顧客を紹介してくれたりします。そして始めて継続的な繁栄が約束されるのです。顧客の満足度の高い事業所は、結果として高い職業倫理を持った事業所だと言うことができ、これが職業奉仕の理念**であると説いています。

シェルドンは人間関係からも**職業奉仕**を説いています。**事業上で得た利益は、決して自分一人で得た利益ではない。従業員、取引先、下請け業者、顧客、同業者など、自分の事業と関係を持つ、全ての人々のおかげで得たことに感謝するべき**であると。

シェルドンの**職業奉仕理念**をまとめて見ましょう。自らが儲けるために職業に就いていると言う考えを捨てて、顧客の満足度を最優先しつつ、**自らの職業を通じて人々に奉仕をする**と言う考えで事業を営めば、その真摯な態度が顧客の心を捉えて、リピーターとして何度も事業所を訪れたり、新規の顧客を紹介してくれるはず。その結果大きな利潤が得られると共に、その事業所は継続的に発展し結果として**高い職業倫理を持つ企業に育っていく**はずで**職業奉仕の原点はここに有る**と言っています。



アル・カポネの乗った当時のセダン
1928年製キャデラック。鋼鉄のキャデラックと言われ、カポネの装甲車とも言われた。

職業奉仕の理念が認識され、それを具体化するために作られたのが当時の**道徳律**です。業界が採用した**道徳律**の中で最も有名なのが、ガイ・ガンディカーが作ったレストラン協会の**道徳律**です。当時若年労働者の深夜労働があたり前だった時代に、現代の**労働基準関係諸法**や**就業規則**とまったく引けを取らないような規約を定め普及させました。1920年から1930年にかけての10年間でロータリーの**職業奉仕**が社会に大きな影響をおよぼした**爛熟期**といえます。1920年にアメリカに禁酒法が制定され、期を一にしてマフィアがシカゴで活動を開始します。前述のレストラン協会の**道徳律**は、禁酒法の絡みで、マフィアのターゲットになったレストラン業界を防衛するためにガイ・ガンディカーが作ったものと言われています。

そして、**シカゴ・クラブ**は退役軍人のチャンバリン大佐をシカゴ市の防犯協会の会長に就任させ、マフィアの息のかかった大量の保釈保証人を告発したり、ロータリアンを証人として出延させて**ボビー・フランク殺人事件**を解決します。

【参考】 1920年アル・カポネがシカゴへ移住。1920～1933年はマフィアの資金源となったアメリカ禁酒法時代でした。1925年頃シカゴのマフィアの各組織をカポネが支配、1926年頃、**売春、賭博、脱税**、そして**賄賂**で政界や警察、弁護士、判事を従順し影の市長とまで言われる。1929年 アメリカ司法省で、腕利きの特別捜査官チーム（アンタッチャブル=賄賂の効かない人々）を組織し、カポネ摘発にのりだす。
1931年10月カポネ脱税（殺人罪では証拠が出ず起訴できないため）で起訴、**アルカトラズ島刑務所**（当時、罪人には有名なサンフランシスコ湾に浮かぶ小島、断崖絶壁で脱走不可能な刑務所）に収監される。

ロータリーは禁酒法に関連した貿易（マフィアはカナダなどから酒を多量に密輸入していた）に関する他国法遵守、贈収賄禁止、適正広告などの法制化運動にも大きく関与します。現在では当たり前になっている**公正な広告**も、当時のロータリアンの努力によって立法化されたものです。こういった活動は多分に政治がらみだったとはいえ、**職業奉仕を前面に押し立てて、堂々とマフィアと対峙したロータリアンを世間の人々が喝采を送った**ことは否定できません。ロータリアンであることに誇りを持ち、行動した姿は、一般の人たちもロータリアンになることを夢見たわけで、ロータリーは大きな発展を遂げた訳であります。

【 ロータリーの気品と職業奉仕の原点 】

A、ロータリーの気品 とは

経営者として多様な経歴と相まって
良識と奉仕の知性を際立たせ
そして謙虚と品位を重視する集団
それが**ロータリー**であり
そのことが**ロータリーの気品**でもある。

(勿論、**ロータリアン**はこの集団の一員であり
全会員がこれを遵守し 啓蒙に努めなければならない。)

B、職業奉仕の原点 とは

(裏面参照)